

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立佐賀工業高等学校(定時制)
-----	-------------------

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> どの評価項目にも「概ね達成できている」が、改善の余地があるため、今年度は一層計画的に取り組んでいく必要がある。 校内で独自に実施しているいじめの早期発見のための「学校生活アンケート」は、内容を見直し、生徒の正確な実態の把握と安全安心な学校生活の確保に繋げたい。 低下傾向にある喫食率の向上に向け、職員全体による日々の指導の充実・食育講話・メニューの改善等を通じた組織的な取組を実施する必要がある。 一人ひとりの生徒に対し、職員全体できめ細やかな関わりができる定時制の特長を継続し、生徒の個性・長所を一層伸ばしたい。
------------------	--

2 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域産業の発展のみならず、日本の産業界を牽引し、倫理観を持って未来に貢献する優秀な工業技術者を育成する。 主体的な学び、協働学習、探究活動を重視した教育を実践し、時代に即した柔軟な考え方を創造できる力を育む。 専門分野の基礎的な知識・技術を習得するとともに、先端的技術と融合させた学習を取り入れ、文武バランスの取れた環境を整えることで、自ら学び、考え、行動できる生徒を育成する。
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>〇「ものづくり」から“者(ひと)づくり”そして“未来(あす)づくり” ア 新たな課題への着実な対応 イ 深い生徒理解に基づく指導 ウ 規律ある高校生活の定着 エ ものづくり教育の推進 オ 開かれた学校づくりの推進</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標		中間評価	5 最終評価
---------------	--	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 〇わかる授業の実践と学習意欲の向上 〇学び直しの実践 	<ul style="list-style-type: none"> 〇普通教科における基礎的な学力を育成し、学びの基礎診断において、準備時間を6時間以上行い、国語・数学の平均50点以上にする。 〇義務教育程度の学び直しの時間を5回以上確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇学びの基礎診断を利用し、生徒の学力を把握するとともに個々の学力に応じた基礎的な内容や一般常識の学習を取り入れ、就職試験にも対応できるようにする。 〇国語・数学に関して、どの段階で躓いているのかを生徒が自ら確認できるようなドリル形式の問題による学び直しの時間を確保する。複数の職員を配置して個別の指導が行えるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇学びの基礎診断について、事前準備を5日間設定し各教科の協力を得て取り組んだ。教科別概要ではわからずかはあるが上昇がみられた。学習の習慣化が図れば、一層向上するものと思われる。 〇学び直しの機会として、日常生活に即した内容で「学びの時間」に取り組んでいる。国語、数学で2回実施したが、間違えて覚えているものや、つまづきの段階を確認できるように回数を重ねたい。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> 〇「相手の思いやる」や「命の尊さを再認識した」と答える生徒100%を目指す。 〇いじめの早期発見、早期対応体制の充実 〇ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> 〇「相手の思いやる」や「命の尊さを再認識した」と答える生徒100%を目指す。 〇アンケート調査ならびに担任による面談等を実施する。 〇学校生活アンケート等を年7回以上実施し、「未然防止」「早期発見」「早期対応」に向けた体制の推進する。〇いじめを「しない」「させない」「ゆるさない」心を育成する教育を実践する。 〇ふるさと佐賀についての理解の深化と、佐賀を愛し誇りに感じる人材を育成し、佐賀を誇りに思う生徒100%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇EHS予防講話、性に関する指導講話を全学年実施する。 〇アンケート調査ならびに担任による面談および登校指導については、計画通り実施できており、いじめの未然防止・早期発見に取り組んでいる。いじめの認知と認知する事案はなく、全職員に情報を共有する機会を、今のところない。 〇LHRや集会等で、悩みを相談するように呼びかけている。 〇5月に歴史探訪として、学校周辺の史跡を巡り佐賀の歴史についての講演会等を実施し、佐賀についての理解を深め佐賀に対する誇りと自信を持つ人材を育てる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇5月にEHS予防講話、9月に性に関する指導講話を実施した。自分が存在していることへの感謝、命を大切にすることを考える機会となった。 〇7月のアンケート調査ならびに担任による面談、登校指導を実施し、いじめの早期発見・対応の体制を推進することができた。 〇いじめを認知する事案があれば、対策委員会に全職員へ情報共有し、全職員で取り組む体制を推進しているが、今年度はいじめの認知・認知ともに0件であった。 〇長期休業前後の集会等で、悩みを相談するように呼びかけることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇5月にEHS予防講話、9月に性に関する指導講話を実施した。熱心に話を聞き、生徒感想から、自分が存在していることへの感謝、命の大切さを考え、相手の思いやること等、真剣な記述がみられた。 〇7月のアンケート調査ならびに担任による面談、登校指導を実施し、いじめの早期発見・対応の体制を推進することができた。 〇いじめを認知する事案があれば、対策委員会に全職員へ情報共有し、全職員で取り組む体制を推進しているが、今年度はいじめの認知・認知ともに0件であった。 〇長期休業前後の集会等で、悩みを相談するように呼びかけることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇素晴らしい取組としました。但し、「100%を目指す」という目標に対する結果について言及がないようです。 〇成果指標は概ね達成されていると考え、A評価とします。 〇性に関する講話は、毎年行っていただきたいと思えます。 〇十分対応されており、素晴らしいと思いました。 〇成果指標は概ね達成されていると考え、A評価とします。 〇いじめの未然防止が良くできていると思えます。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 〇望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 〇望ましい生活習慣の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 〇「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上を目指す。 〇給食喫食率80%以上を目指す。 〇感染症、食中毒を防ぐための自己管理能力を育成し、「手洗いは大切である」と答える生徒100%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上を目指す。 〇給食喫食率80%以上を目指す。 〇給食アンケートを2回実施し、その後の指導に繋げる。 〇グリッターバッグを使った手洗い指導を実施する。(1年生対象) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇5月に手洗い指導を行い、アンケートの結果「手洗いは大切である」と答えた生徒は100%だった。 〇第1回給食アンケートで「健康に食事は大切である」と考えた生徒は85%、9月までの給食喫食率は60%であった。給食だけでなく食育講話等で食事の大切さ、栄養素の働きを話し、生徒の意識付けになっている。教科と連携して食品ロスについての川柳をつくり、考える機会とした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇5月に手洗い指導を行い、アンケートの結果「手洗いは大切である」と答えた生徒は100%だった。 〇第1回給食アンケートで「健康に食事は大切である」と考えた生徒は85%、1月までの給食喫食率は63%であった。給食だけでなく食育講話等で食事の大切さ、栄養素の働きを話し、生徒の意識付けになっている。教科と連携して食品ロスについての川柳をつくり、考える機会とした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇給食喫食率以外に目標を達成されており、素晴らしいと思いました。 〇給食喫食率の向上については、個々の生徒の事情があり難しい部分もあるかと思えます。給食でなくてもきちんと食事を摂ればよい部分もあるかと思えます。(給食でないこと確認が難しいかと思いますが) 〇一部未達目標があるため、B評価としました。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 〇教育相談の充実 ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 〇事務職員の学校運営への積極的参画と教員との連携促進 	<ul style="list-style-type: none"> 〇全教職員で情報を共有し、スクールカウンセラー等と連携し、組織的・機動的な体制をつくる。 〇大人(50分)を出せるように、相談環境を調え、生徒の居場所を作る。 〇教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 〇教育行政職員の専門性を活かす、経営的視点を持つながら学校運営に積極的に参画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇担任、副担任と教育相談、スクールカウンセラー、養護教諭等との連携を密にし、全教職員が共通理解を図りながら相談・指導にあたる。 〇7月10月の職員会議において教職員が情報を提供し、組織的教育相談の体制を確立する。 〇学校閉庁日は、当初の予定どおり8月10日から8月15日の期間で実施する職員がなかった。 〇4月から9月までの全職員の時間外在校等時間の平均は、11.0時間であり、上限の45時間以内を達成している。 〇校内の行事や諸会議については、全て勤務時間内に設定・実施することができた。 〇教員が要望を聞きながら施設・備品の修理や購入を進め、教育環境を改善することができた。 〇物品の購入に優先順位をつけ、物価・電気代の高騰の影響を最小限にすることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇昨年度に引き続き、スクールカウンセラーによる全職員面談を実施している。スクールカウンセラーと少しでも話すことで、安心感を得たり、相談しやすい雰囲気作りができた。7月と10月に心の疲れやストレスの発散法などを教えてもらった。 〇学校閉庁日は、当初の予定どおり8月10日から8月15日の期間で実施する職員がなかった。 〇4月から9月までの全職員の時間外在校等時間の平均は、11.0時間であり、上限の45時間以内を達成している。 〇校内の行事や諸会議については、全て勤務時間内に設定・実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 〇今年度もスクールカウンセラーによる全職員面談を実施し、気持ちの整理ができたり、心が楽になるアドバイスを受けて、落ち着いた学校生活を送ることができた。7月と10月に心の疲れやストレスの発散法を教わってもらった。スクールカウンセラー講話で全体に癒やし効果を与えてもらい、相談することの大切さを知り、安心して全職員面談を受けることができた。 〇今年度もスクールカウンセラーによる全職員面談を実施し、気持ちの整理ができたり、心が楽になるアドバイスを受けて、落ち着いた学校生活を送ることができた。7月と10月に心の疲れやストレスの発散法を教わってもらった。スクールカウンセラー講話で全体に癒やし効果を与えてもらい、相談することの大切さを知り、安心して全職員面談を受けることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 〇落ち着いて学校生活を送ることができたというところで素晴らしいと思いました。 〇概ね達成できていると考えますので、A評価とします。 〇生徒全員の面談実施は素晴らしい。教職員とスクールカウンセラーとの連携が良くできていると思えます。 〇目標を達成されており、素晴らしいと思いました。 〇成果目標は達成されていますので、A評価とします。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 〇事務職員の学校運営への積極的参画と教員との連携促進 	<ul style="list-style-type: none"> 〇教育行政職員の専門性を活かす、経営的視点を持つながら学校運営に積極的に参画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇教員との連携を密にし、情報共有を行い、学校の現状を把握して一つのチームとして学校運営に取り組む。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇教員が要望を聞きながら施設・備品の修理や購入を進め、教育環境を改善することができた。 〇物品の購入に優先順位をつけ、物価・電気代の高騰の影響を最小限にすることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇物価・電気代等の高騰により、厳しい予算状況であったが、授業に必要な物品の購入や修理を行うことができ、教育環境を低下させることなく予算執行することができた。事務室に限らず、校務が来年度はより効率的に行えるように事務処理の改善、提案等を行いたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇効率的な予算執行をされており素晴らしいと思いました。 〇可能であれば、具体的な目標を立てられると分りやすいように思いました。 〇概ね達成できていると考えますので、A評価とします。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				〇進路実現	<ul style="list-style-type: none"> 〇進路希望の実現 	<ul style="list-style-type: none"> 〇生徒・保護者にとって満足度の高い進路実現を達成する。(進路決定100%を目指す) 〇進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成と定着。年度末生徒アンケートで「身についた」生徒70%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇生徒の能力・適性・希望に合った進路先の情報提供と適切な指導助言に努める。 〇在学中の就業率向上と職業講話などを通して職業観・勤労観の育成と定着を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇生徒の希望に沿った進路先の情報提供と指導助言に努め応募や受験の準備と対応を行い、就職希望では2名中1名が内定している。進学希望の3名は、これから受験となるので全員合格を目指す。
★ものづくり教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 〇ものづくりに対する興味関心の醸成 〇ジュニア・マイスター取得者及び各種競技会上位入賞者増の実現 	<ul style="list-style-type: none"> 〇★学習に対し、主体的に取り組んだと思う生徒80%以上を目指す。 〇各種資格取得について、次の目標を達成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・計算技術検定合格率80%以上 ・パソコン利用技術検定合格率70%以上 ・危険物取扱者試験合格率40%以上 ・第2種電気工事士合格率100%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 〇少人数でのきめ細やかな指導により、生徒の個性・能力・特技の伸長を図る。 〇始業前、放課後の補習を実施し、資格取得に対するチャレンジマインドの向上を図る。 〇学習が遅れ気味の生徒へは、個別指導を実施する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 〇計算技術検定は合格率50%で目標に達しなかった。電気工事士は1名受験し、筆記試験は合格したが、技能試験で不合格であった。12月に再度技能試験を受験することで補習を計画している。後半のパソコン利用検定試験、危険物取扱者試験は補習を実施し、それぞれの目標値を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇計算技術検定は合格率50%で目標に達しなかった。電気工事士を受験した1名は下期の技能試験において合格した。また、パソコン利用技術検定については合格率78%、危険物取扱者試験については50%であった。いずれも目標値を達成した。どの資格試験も補習の成果があったものと思われる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇目標を概ね達成されており、素晴らしいと思えます。但し、「学習に対し、主体的に取り組んだと思う生徒80%以上を目指す」という目標に対する成果について言及がないようです。 〇一部未達目標があるため、B評価とします。 〇電気工事士の技能試験へ再チャレンジで合格に導いたことは素晴らしいと思えます。
〇開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 〇魅力ある情報の発信 〇志願者、保護者の学校理解の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 〇学校HPの充実と月1回以上の更新を行う。 〇高校説明会等を通じて工業高校への理解や連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇志願者、保護者のニーズに対応したタイムリーな情報発信に努める。 〇危機管理意識に基づく情報公開により、安全・安心な教育活動を展開する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 〇学校ホームページは、中学生の進路選択の貴重な材料となるため定期的な更新に努めているが閲覧数が伸びていない。個人情報に配慮しつつ、運動感のある情報発信に取り組む。閲覧数を増やせるよう、更新の工夫・改善を重ねたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 〇できるだけリアルタイムで、生徒の学校生活や行事の紹介など閲覧数の向上を意識した。また、生徒の人権や著作権に配慮した情報発信を行うことができた。 〇夏季休業期間を利用して、近隣を含む県内の中学校(37校)への訪問に取り組んだ。また、専門高校説明会や中学生向け高校進学説明会に参加し、専門高校及び本校定時制の教育実践に対する理解を深める活動に取り組む。魅力発信に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 〇とても熱心に取り組まれており、素晴らしいと思えます。 〇些細なことですが、ホームページの各種バナーの形状や色などを検討されると更に見やすくなると思えます。 〇概ね達成されていると考えますので、A評価とします。 〇佐賀工業高校定時制の魅力や、色々な方面から中学生や保護者に伝え続けて下さい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 「学びの時間」(国語・数学)の取組が、基礎学力の向上に十分反映されているとは言えない。次年度は実施回数や内容の改善を行い、一層の基礎学力向上に努めていく。 「いじめ問題への対応」については、事業の認知・認知ともになく、日常の未然防止の取組や人権教育の推進に一定の成果があったと考えられる。次年度も、教育相談的な視点を含め、生徒の安全安心な学校生活の確保に全力で取り組んでいく。 給食アンケートの実施、給食だよりの発行・食育に係る講話により喫食率の向上に取り組んだが改善に繋がっていない。次年度は、日常生活全般の見直しに対する意識を高めさせ、「食の大切さ」を含めた健康教育の充実に取り組む必要がある。 学校ホームページの更新、高校説明会、中学校訪問等を通じて、一層の定時制教育の魅力発信に取り組む、生徒募集に繋げていく。
----------------	--